

生薬伝統殖産の礎 森野藤助

日本最古の朝廷が置かれた大和地方(奈良県)は、中国医学の伝来後、薬草採集や栽培など生薬と深い関わりを有する国内有数の薬草生産地です。江戸享保期、八代将軍徳川吉宗が推進した薬種国産化政策の一端を担った森野旧薬園(宇陀市大宇陀)創始者・森野初代藤助通貞(号：賽郭、1690～1767年)は、幕府から下賜された多くの外国産薬種の栽培化を実現しました。藤助防風として今に至る中国産防風をはじめ、野生種ミヤマトウキから大和当帰育成開発の伝統知は大和薬種を育み、大宇陀の地は様々な薬問屋が軒を連ねた薬の街として発展しました。日本最古の私設薬草園として現存する森野旧薬園は、生物多様性の保全と国産化の実践による生薬安定確保という極めて現代的かつ普遍的な課題と対策が内包される文化遺産です。本展覧会では、生薬、漢方薬生産において中心的な役割を担う薬種業界に受け継がれてきた歴史や国産薬種のルーツを支える経験知をたどり、現代における生薬生産の現状と課題について紹介します。

1. 出品内容

森野家文書(賽郭祠堂碑軸・池野大雅神農図・森野家芳名録(一部)・家則他)、牧野富太郎 墨跡、津村生薬研究所製和漢薬標本(一部)、生薬目録、昭和天皇行幸資料、森野旧薬園保存会 有志肖像写真、植物研究雑誌、和漢医薬品標本[(株)ツムラ提供]、他)、松山本草レプリカ、旧薬園保存会寄付一覧扁額レプリカ、大阪大学総合学術博物館所蔵生薬資料他

2. 展示構成

第1章(資料室1F) 歴代森野藤助が繋ぐ学際的交流
第2章(資料室2F) 官民連携の魁：大和薬種を守る
第3章(旧葛工房) 旧葛工房にみる製造技術：水飛法と寒晒し

3. 会場 国史跡 森野旧薬園 資料室他

(但し森野旧薬園入園料として300円必要)
〒633-2161 奈良県宇陀市大宇陀上新1880

4. 会期 2024年3月24日(日)～6月23日(日) 期間中無休

開館時間 9時30分～16時30分

主催：森野旧薬園 共催：大阪大学総合学術博物館

協力：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構・つくば牡丹園・日本漢方生薬ソムリエ協会・一般社団法人日本東洋医学会・近畿大学薬学部 薬用資源学研究室・アカデミックシアタープロジェクト「生薬の図書館プロジェクト」・(株)前忠・(株)栃本天海堂・福田商店

展示解説(要予約) 連絡先 森野旧薬園 TEL:0745-83-0002

(大阪大学総合学術博物館招聘教授/旧薬園顧問相談役 高橋京子)

宇陀松山地区の観光ガイドをご希望の場合は、2週間前までに観光ボランティアガイドの会(宇陀市観光課内 TEL 0745-82-2457)へお問い合わせください。

本研究の一部は独立行政法人日本学術振興会2017-22年科学研究補助金基盤研究(B) 特設分野研究(17KT0079)、2023-24年研究活動スタート支援(23K18705)、大阪大学総合学術博物館第7回特別展(2014年)、農水省委託プロジェクト研究「薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発」(2016-2020年)の成果が含まれる。



森野旧薬園保存会
有志肖像写真

